

# 「子ども条例と子どもの育ちについて」アンケート実施報告

健康福祉部こども局こども未来室

平成23年4月に三重県子ども条例が施行されたことをうけ、e-モニターの皆さんにご参加いただき、「子ども条例と子どもの育ち」についてのアンケートを実施しましたので、その結果をお知らせします。

アンケートにご協力くださったe-モニターの皆さん、ありがとうございました。

## 【アンケート概要】

### 1 アンケート実施期間

平成24年2月13日から平成24年2月29日まで

### 2 意見募集の結果

対象者数 1588人

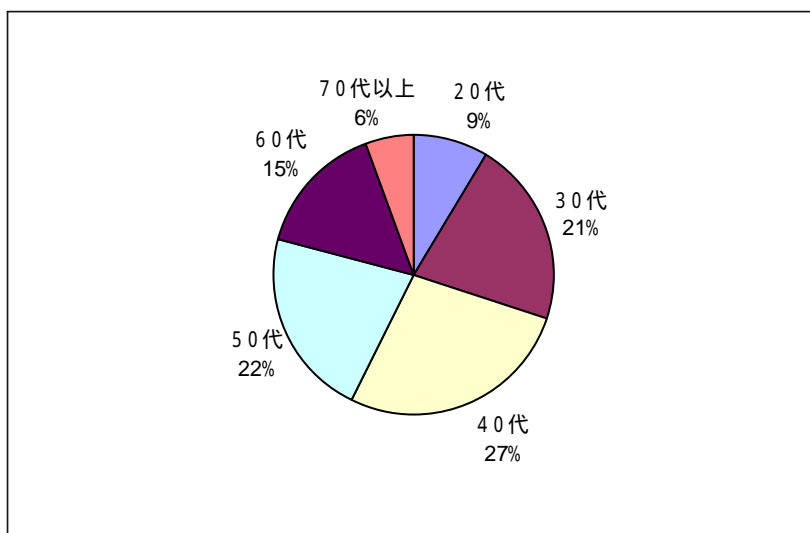
回答者数 1029人（回答率64%）

### 3 回答者の属性

#### （1）性別

男性496人（48.2%） 女性533人（51.8%）

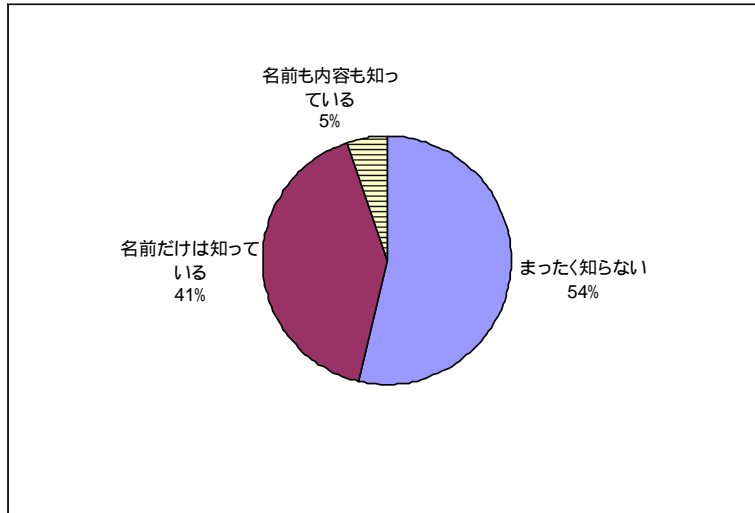
#### （2）年代



## 【アンケート結果】

### Q1 子ども条例について

あなたは、「三重県子ども条例」のことを知っていますか？

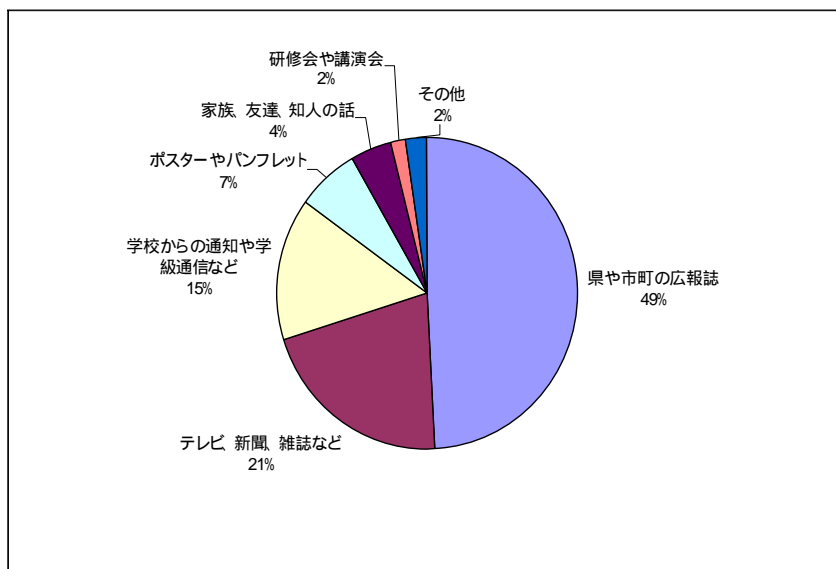


条例について「名前も内容も知っている」が5.3%、「名前だけは知っている」が40.9%、計46%の方が、「知っている」と回答しました。

一方、「まったく知らない」が半数以上の53.7%で、今後もひきつづき条例を皆さんに知ってもらう取り組みが必要です。

### Q2 子ども条例を知ったきっかけ

Q1で「名前も内容も知っている」「名前だけは知っている」と答えた人にお聞きします。次のうち、あなたが子ども条例を知ったきっかけとなったものを1つ選んでください。



条例を知ったきっかけは、「県や市町の広報誌」がもっとも多く、次に「テレビ、新聞、雑誌など」でした。

「その他」としては、ラジオやインターネット、職場で という回答がありました。

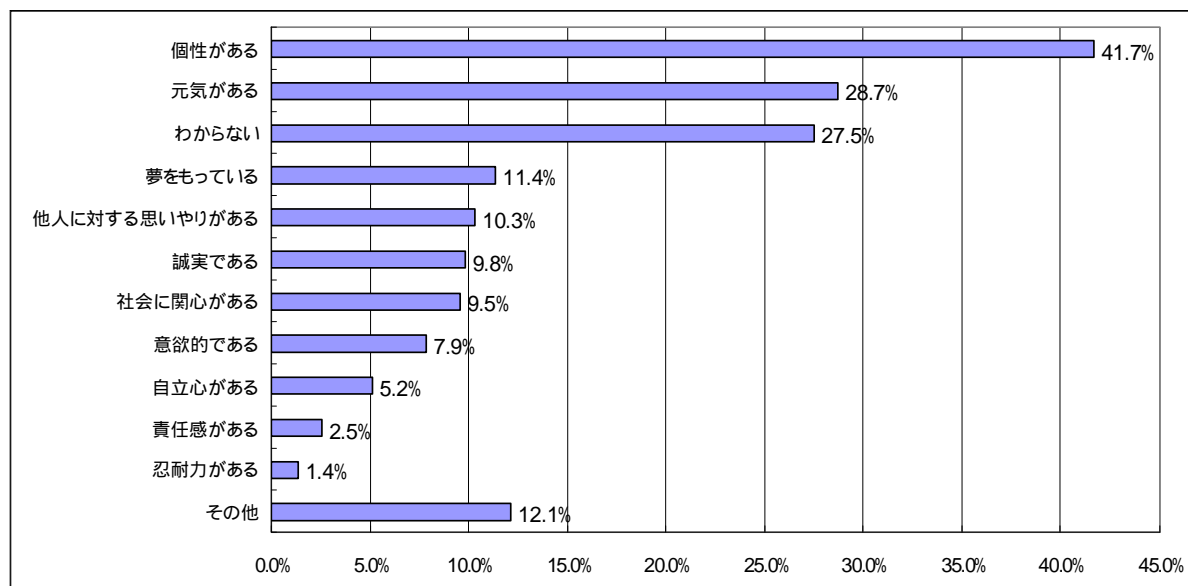
### Q3 今の子どもたち

一般的に、今の子どもたちには、どんな特徴があると感じますか。あてはまるものをすべて選んでください。（複数回答）

もっとも多かったのは、「個性がある」（41.7%）で、次に「元気がある」（28.7%）、「夢を持っている」（11.4%）でした。もっとも低かったのは、「忍耐力がある」（1.4%）でした。

「わからない」を選んだのは27.5%で回答の中では上位にあります。これは選択肢がすべてプラスの項目なので、そのいずれにも該当しないことから選ばれたものとみられます。さらに、「その他」を選んだ12%の方から、マイナスのイメージが寄せられました。その答えとしては「選択肢に当てはまらない」（15人）、「自己中心的」（10人）、「おとなしい・目立たない」（7人）、「無関心」（4人）、「ゲームや携帯に依存」（3人）、「外で遊ばない」（3人）、「個性がない」（3人）などの意見がありました。

肯定的なイメージである回答を選んだのは、最大で4割強であり、子どもに対する良いイメージは低調でした。

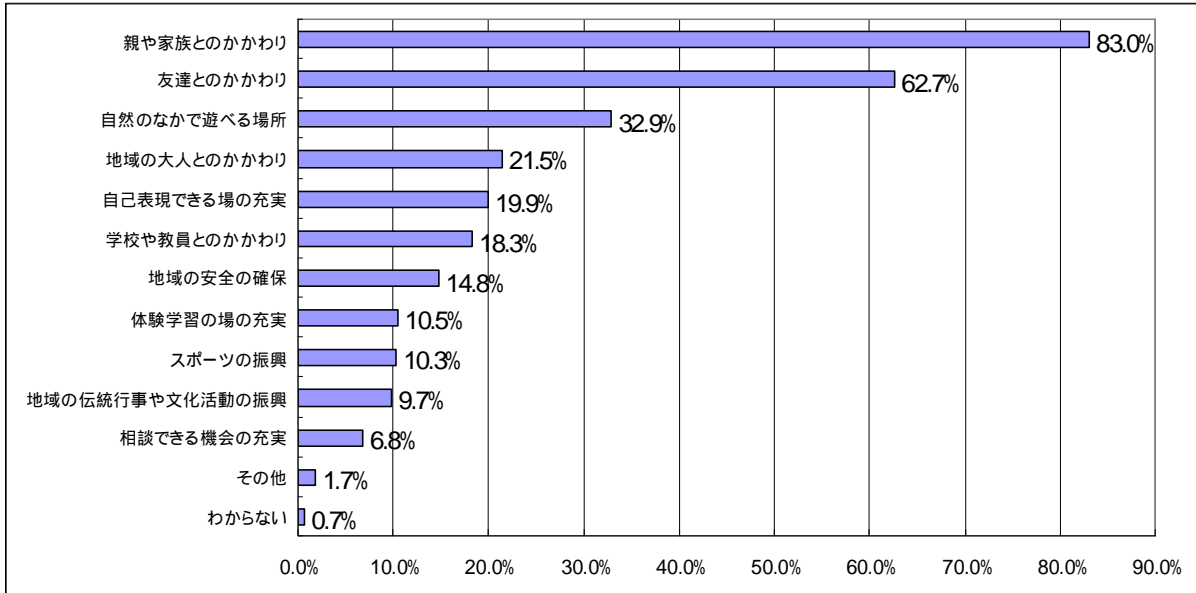


### Q4 子どもの育ちに重要なこと

子どもがいきいきと育つために、特に重要だと思うものを3つ選んでください。

「親や家族とのかかわり」を選んだ人がもっとも多く、83%が選びました。次に、「友達とのかかわり」が62.7%と続いており、これら上位2つが他の項目よりも大きく選ばれており、皆さんが人との関わりを重要と考えていることがわかります。

「その他」としては、教育方法や勉強に関することで5人、夢を持てるような社会（4人）大人自身が余裕を持って手本となること（3人）などでした。

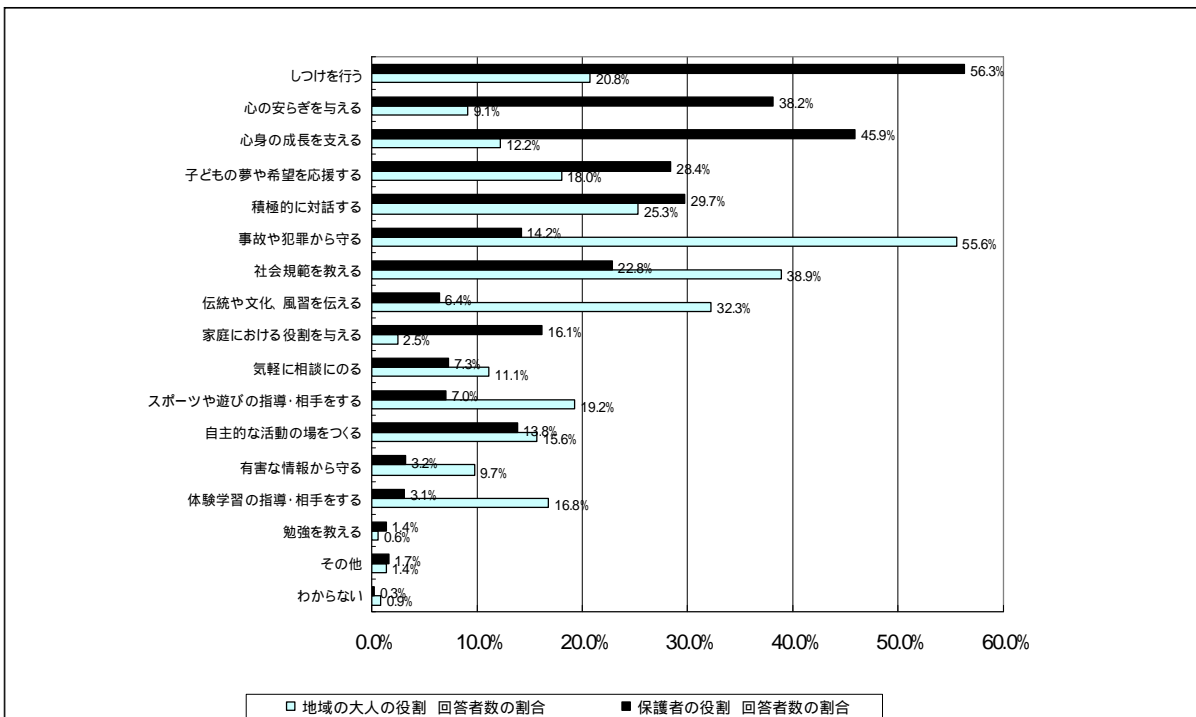


### Q 5 保護者の役割

子どもがいきいきと育つために、親や保護者の役割として大切だと思うものを3つ選んでください。

### Q 6 地域の大人の役割

子どもがいきいきと育つために、地域の大人の役割として、大切だと思うものを3つ選んでください。

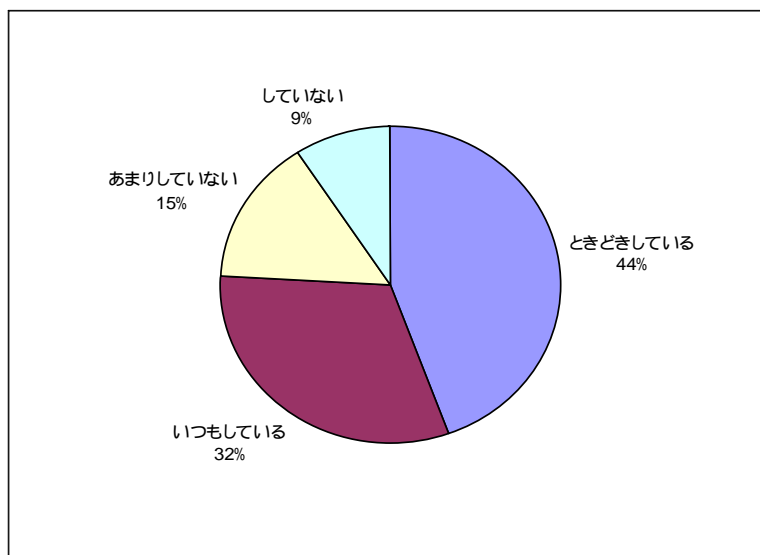


同じ選択肢を用いて、保護者の役割と地域の大人の役割についての意識を尋ねました。保護者の役割であると認識されているのは、「しつけを行う」56.3%、「心身の成長を支える」45.9%、「心の安らぎを与える」38.2%です。

地域の大人の役割としては、「事故や犯罪から守る」55.6%、「社会規範を教える」38.9%、「伝統や文化、風習を伝える」32.3%でした。

### Q7 あいさつ

あなたは近所の子どもとあいさつをしていますか。



「いつもしている」「ときどきしている」の合計で75.9%という多くの方が、子どもとあいさつを交わしており、心強い結果となりました。

なお、後述のQ10自由回答の中には、近所に子どもがいないと記されたものがあり、「挨拶をしていない」人の中には、挨拶する相手がない状況が含まれ

ていると考えられます。

### Q8 参加したことがある活動

地域社会における、子どもや子育てに関する活動にあなたや子どもが参加したり・利用したりしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

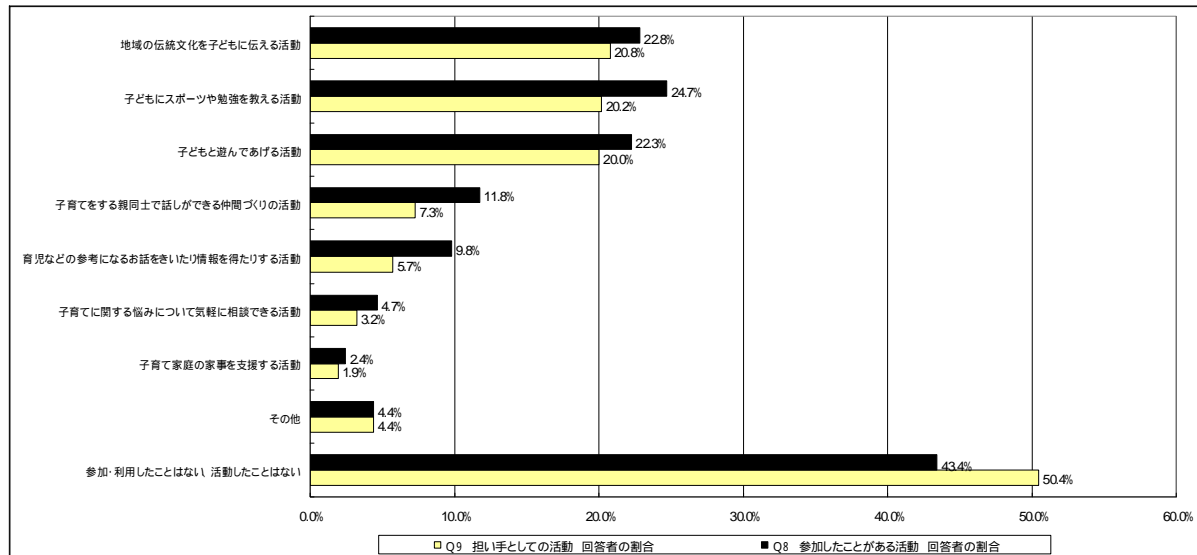
### Q9 担い手としての活動

地域社会における子どもや子育てに関する活動の担い手として、どんな活動をしたことがありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(複数回答)

Q9担い手としてどんな活動をしたことがあるか、については、もっとも多かったのが、「地域の伝統文化を子どもに伝える活動」20.8%でした。次に「子どもにスポーツや勉強を教える活動」20.2%、「子どもと遊んであげる活動」20.0%でした。

Q8とQ9において、「参加・利用したことがない」かつ「活動したことがない」人は、392人(38.1%)でした。年代別では、20代：65.9%、30代：45.0%、

40代：30.0%、50代：34.1%、60代：36.3%、70代以上：29.3%  
 であり、高齢者世代ほど、地域社会での子育て支援活動等に参加・利用したり、活動の担  
 い手となったりしています。



### Q10 心がけていること

子どもがいきいきと育つために、あなたが心がけていたり、心がけようと思っ  
 たりすることがあれば、おきかせください。(自由回答)

皆さんが心がけていることとして、461件のご回答をいただきました。その回答の内  
 容の主旨を13に分類した結果を多いものから紹介すると次のとおりでした。(回答にはい  
 くつかの要素が含まれているので、合計件数が多くなります。)

- 1、「挨拶をする」125件(27.1%)
- 2、「対話する・傾聴する」85件(18.4%)
- 3、「しつける・善悪や危険を教える・注意する」81件(17.6%)
- 4、「尊重する、対等に扱う」53件(11.5%)
- 5、「まずは大人が見本となる行動を示す」50件(10.8%)
- 6、「地域の活動に参加する」47件(10.2%)
- 7、「生活環境整備(規則正しい生活、遊べる環境、経済的安定など)」43件(9.3%)
- 8、「やりたいことを応援する」33件(7.2%)
- 9、「一緒に過ごす、スキンシップ」28件(6.1%)
- 10、「体験させる(遊び、関わり)」22件(4.8%)
- 11、「見守る・観察する」21件(4.6%)
- 12、「ほめる」16件(3.5%)
- 13、「他人の子育て支援」8件(1.7%)

いただいた回答の多くは、子どもの「自己肯定感」を高めるものと考えられます。

「挨拶」を回答した方のなかには、家庭内だけでなく、近所の子どもに対しても行っているという意見がありました。一方、犯罪に疑われたり警戒されたりするため「挨拶や声かけをしにくい」という回答もありました。

5番目に多かった「まずは大人が見本となる行動を示す」回答には、私たち大人自身が正しい行動をすることや、明るく楽しい気持ちや余裕をもって子どもに接することなどの答えがありました。